

IV 研究活動

農場では、教員と技術職員が一体となってフィールド農学に関わる様々な研究および技術開発を推進している。また、農場は、フィールド農学の研究施設として、学部教員あるいは学部学生や大学院生の研究に広く活用され、その成果は分子生物学から農業現場直結型まで広い範囲に亘っている。

1 研究課題

1) 農場の研究課題

- ・ヤムイモ類の生理生態学的研究
- ・熱帯・亜熱帯性植物の導入と順化並びに機能性成分に関する研究
- ・サトウキビの生育特性と糖蓄積に関する研究
- ・ヤムイモの増殖方法に関する研究
- ・ヤムイモの遺伝資源保存に関する研究
- ・トルコギキョウの新品種作出に関する研究
- ・鹿兒島の伝統野菜の採集と栽培に関する研究
- ・湛水サトイモの栽培に関する研究
- ・アーモンドの生育特性に関する品種間比較
- ・ビワの大果生産に関する研究
- ・遺伝資源としての口之島野生化牛に関する基礎研究
- ・解砕竹粉の飼料・敷料利用に関する研究
- ・黒毛和種・口之島野生化牛の交雑種による牛肉生産に関する研究
- ・焼酎粕の繁殖雌牛用飼料としての利用性に関する研究

2) 農場施設を利用した学部研究室の研究課題

(1) 学内農場農事部圃場を利用した研究課題

(作物学研究室)

- ・カンショの栽培法、生産性および品質に関する研究
- ・水稻の栽培環境反応に関する研究
- ・水稻の温度反応に関する研究
- ・水稻の生育診断技術に関する研究 (共同研究)

(熱帯作物学研究室)

- ・サトウキビおよびトウガラシの栽培技術
- ・アフリカ稲等の成育生育比較
- ・アフリカ稲等イネ遺伝資源の成育比較
- ・米粉適正品種の高収量技術の開発
- ・キャッサバおよびトウガラシの栽培技術開発
- ・水稻再生二期作技術開発

(比較環境農学研究室)

- ・繊維作物ケナフの栽培と実習用繊維採取
- ・ケナフ栽培による種子、繊維の収穫や実習で行う紙すき材料の確保
- ・ケナフの飼料的利用に関する研究
- ・サボテンを栽培し、鹿兒島市での適用性を検討する。
- ・ロゼルおよび根太郎スイカ栽培研究

(作物生態学研究室)

- ・共生窒素固定量の農業気象学的評価法の確立

(植物育種学研究室)

- ・水稻の農業形質、生殖隔離、耐病性に関する遺伝分析 (自然科学教育研究支援センター：田浦教授との共同研究)
- ・アワの形態調査と品種保存
- ・ヤムイモ、サトイモとカンゾウの多様性に関する遺伝的研究・サトウキビの糖蓄積に関する品種間差異 (附属農場：遠城教授、朴准教授との共同研究)
- ・長命草の栽培試験 (比較環境農学：志水教授との共同研究)

- ・アワの形態調査と品種保存

(果樹園芸学研究室)

- ・ポンカン, アボカド, ブルーベリー, 実験材料の栽培
- ・極早生ウンシュウとポンカンの栽培試験

(蔬菜園芸学研究室)

- ・異種作物の混植によるコンパニオンプランツ効果に関する研究
- ・桜島ダイコンに関する研究
- ・ヤムイモ・ウコン類の繁殖および地下部肥大に関する研究 (農場: 遠城教授, 朴准教授との共同研究)

(観賞園芸学研究室)

- ・ツバキ属植物の系統発生並びに新花色の育種, 及びヤギによるツバキ園管理 (共同研究)
- ・ツバキ属植物の花色遺伝, 及びガチョウなどによるツバキ園管理 (共同研究)
- ・トルコギキョウの新花色の育種
- ・トルコギキョウの花形・花色の育種と切り花生産

(害虫学研究室)

- ・昆虫ウイルスによるチャノホソガの防除
- ・ガチョウ放飼によるチャ園の下草管理 (家畜管理学研究室と併用)
- ・露地ナスにおける土着天敵を利用した害虫防除体系の確立
- ・トマトに発生するハダニ類およびそれらの天敵の生態

(家畜管理学研究室)

- ・地域未利用資源の飼料化に関する研究: サイレージ調製および消化・代謝試験, 嗜好試験など
- ・ツバキ属植物の系統発生並びに新花色の育種, 及びヤギによるツバキ園管理 (共同研究)
- ・ツバキ属植物の花色遺伝, 及びガチョウなどによるツバキ園管理 (共同研究)
- ・ガチョウ放飼によるチャ園の下草管理 (共同研究)

(土壌科学研究室)

- ・土壌微生物が生成する揮発性有機化合物 (VOC) の網羅的組成解析による微生物群集の評価

(植物栄養・肥料学研究室)

- ・ソラマメ内部黒変症に関する研究
- ・マイナー作物の栽培技術・施肥管理についての検討
- ・ソラマメのホウ素吸収と体内分配に関する研究
- ・エリアンサスの土壌肥料学的研究

(焼酎製造学)

- ・焼酎学実習におけるサツマイモ苗床

(農業環境システム学研究室)

- ・環境保全型雑草制御に関する研究

(環境情報システム学研究室)

- ・水稻の生育診断技術に関する研究 (共同研究)
- ・デジタル分光カメラによる連続生育監視システム開発
- ・イネ生育環境の観測及びモデル評価 (作物学研究室と共同)

(遺伝子実験施設)

- ・ワールドイネコレクションの栽培実験
- ・アジア産イネの形質調査と品種保存

(法文学部)

- ・共通教育「環境ビジネス1・2」でキャンパス内落ち葉を原料とする腐葉土を用いて環境配慮型サツマイモを栽培し, 大学祭期間中に子どもを対象とした芋掘り体験他を環境教育とともに提供

(附属農場)

- ・ヤムイモの品質に関する研究

(2) 唐湊果樹園を利用した研究課題

(果樹園芸学研究室)

- ・パッションフルーツの樹体発育, 花芽分化および結実に関する試験
- ・鹿児島在来カンキツの特性解明と利用に関する
- ・カンキツ類の進化および種分化に関する研究

- ・アセロラの栽培・育種技術の改良
- ・アボカド品種の特性解明
- ・鹿児島県におけるアーモンドの生育特性の解明
- ・アーモンド品種不明樹の品種識別
- ・中間台木‘ひめこなつ’に高接ぎした少低温要求性モモ品種‘KU-PP1’および‘KU-PP2’生育に関する研究
- ・少低温要求性モモ品種‘KU-PP1’および‘KU-PP2’生育に関する研究

(3) 指宿植物試験場を利用した研究課題

(果樹園芸学研究室)

- ・アセロラの栽培・育種技術の改良
- ・アボカドの安定生産条件の解明
- ・鹿児島県におけるマンゴーの花芽分化特性に関する研究
- ・亜熱帯果樹の連携栽培試験
- ・アボカドにおける着花と炭水化物含量の関係

(附属農場)

- ・ヤムイモおよびキャッサバの遺伝資源保存
- ・ジャトロファの生態学的研究
- ・サトウキビの栽培に関する研究
- ・サトウキビとレンブの栽培に関する研究
- ・ケナフの栽培試験(比較環境農学:志水教授との共同研究)
- ・雲南百薬の栽培試験(比較環境農学:志水教授との共同研究)

(4) 入来牧場を利用した研究課題

(家畜繁殖学研究室)

- ・家畜の繁殖生理・人工繁殖と遺伝子改変家畜作出の教育・研究

(家畜管理学研究室)

- ・山羊放牧による草地の植生管理
- ・シカ害防除に向けた研究協定の遂行(シカの捕獲,発信機装置,捕獲個体の飼育,栄養状態把握に向けた調査など)

(附属農場)

- ・未利用資源の飼料利用に関する研究
- ・動線解析技術による分娩監視システムの開発
- ・動線解析技術を活用した分娩監視及び健康管理システムの開発
- ・口之島野生化牛の成長に関する研究
- ・口之島野生化牛の発育に関する研究
- ・野生鳥獣からジビエ肉生産に関する研究
- ・ジビエ肉生産に関する研究
- ・黒毛和種の放牧肥育に関する研究

(5) 学内農場畜産部を利用した研究課題

(家畜繁殖学研究室)

- ・家畜の繁殖生理・人工繁殖と遺伝子改変家畜作出に関する研究

(家畜育種学研究室)

- ・家畜・家禽に関する遺伝育種学的研究

(家畜管理学研究室)

- ・家畜の行動管理に関する研究
- ・未利用資源の飼料化に関する研究

(栄養生化学・飼料化学研究室)

- ・脂質代謝改善効果を持つ機能性食品の研究
- ・腸内環境の改善効果を持つ機能性食品の研究
- ・未利用資源の家畜飼料化利用を目指した研究

2 研究成果

1) 農場 (2018)

(1) 論文

B.J. Park, C. Yamahira, C.H. Park, H. Samejima, K.J. Chang, and M. Onjo, 2018, Hydroxycinnamates and Flavonoids from flower of *Fagopyrum esculentum*. Chemistry of Natural Compounds 54(4): 766-768

B.J. Park, T. Kouge, T. Hashinoki, H. Samejima, and M. Onjo, 2018, Productivity and Curcumin Content of *In vitro* Regenerated *Curcuma* Plants. Tropical Agriculture and Development. 62(1): 35-42

* 下線は農場教職員を示す。

(2) 口頭・ポスター発表

志水勝好・西修平・朴炳宰・遠城道雄。2018。コダチボタンボウフウの形態・生理に関する研究 I。種子形態の特徴と発芽特性。日本熱帯農業学会第123回講演会(玉川大学, 2018.3.10)

新小田あづさ・瀬戸口智春・朴炳宰・志水勝好・遠城道雄・北原兼文。2018。ダイジョとナガイモにおける粘度の比較。日本熱帯農業学会第123回講演会(玉川大学, 2018.3.10)

岩根宏・上郡春花・遠城道雄・朴炳宰・池澤和広。2018。サトイモ湛水処理における湛水時期の検討。園芸学会秋季大会(鹿児島大学, 2018.9.22)

新小田あづさ・瀬戸口智春・朴炳宰・遠城道雄。2018。ヤマイモ3種における総ポリフェノール含量と抗酸化活性および α -アミラーゼ活性の比較。日本熱帯農業学会第124回講演会(京都大学, 2018.9.29)

* 下線は農場教職員を示す。

(3) 著書

(4) 報告書

(5) 商業誌

(6) 特許

(7) 博士論文

(8) 修士論文

(9) 卒業論文

宮本拓見。2018。ウラルカンゾウの優良系統の選抜

増田健汰。2018。ダイジョの芽挿し法における栽培密度の違いが種イモの生産に及ぼす影響

有馬 遼。2018。エジプトナイルデルタにおけるトウゴマの栽培の可能性

西 修平。2018。養液栽培におけるシーアスパラガスに関する研究

2) 農場を利用した研究成果 (2017年1月~12月)

(1) 論文

芝山道郎・林田亮太・神田英司・下田代智英・木村昭彦。2018。定点俯瞰分光反射率画像による水稻群落葉色モニタリングの試み - 自動インターバル撮影による反射率指標と観測条件の実験的検討 -。システム農学

Busungu C, S Taura, JI Sakagami, T Anai, K Ichitani. 2018. High-resolution mapping and characterization of *xa42*, a resistance gene against multiple *Xanthomonas oryzae* pv. *oryzae* races in rice (*Oryza sativa* L.). Breeding Science 68: 188-199

島田温史・富永茂人・山本雅史, 2018, 水管理がパッションフルーツの樹体生育および果実品質に及ぼす影響, 園芸学研究, 17(1), 1-10

Yamamoto, M., Natori, Y., Kawai, K., 2018, Investigation and DNA analysis of local citrus genetic resources grown on the Chuuk Islands of Micronesia, The Horticulture Journal, 87(3), 340-348

Raharjo, S., Natori, Y., Yamasaki, A., Kitajima, A., Yamamoto, M., 2018, Exploration and DNA analysis of local Citrus genetic resources on Ambon Island of Indonesia. Tropical Agriculture and Development, 62(3), 115-123

高山耕二・原 裕・石井大介・柳田大輝・富永 輝・飯盛葵・松元里志・片平清美・大島一郎・赤井克己・中西良

- 孝. 2018. イノシシはオオカミ尿を忌避するのか?. 鹿児島大学農学部附属農場研究報告. 39:7-10.
- 高山耕二・本田祥嵩・大島一郎・中西良孝. 2018. ガチョウ雛の水順応性および耐寒性. 鹿児島大学農学部附属農場研究報告. 39:11-14.
- Takayama K, Mizoguchi Y, Oshima I, Nakanishi Y. 2018. Weeding effect of free-ranging goslings in a tea field. Journal of Warm Regional Society of Animal Science, Japan, 61: 21-26
- 高山耕二・本田祥嵩・大島一郎・中西良孝. 2018. 緑餌給与がガチョウ雛の発育と飼料利用性に及ぼす影響. 鹿児島大学農学部学術報告. 68:36-41.
- 高山耕二・竹本夏美・大島一郎・萬田正治・野口愛子・中西良孝. 2018. 水田放飼に適した肉用アイガモの作出. 鹿児島大学農学部学術報告. 68:42-51.
- Takayama K, Mizoguchi Y, Oshima I, Nakanishi Y. 2018. Behavioral study on taste responses of geese to sweet, salty, sour, bitter, and umami solutions. Animal Behaviour and Management, 54: 68-74.
- 高山耕二・東原大・大島一郎・中西良孝. 2018. 2段張り電気柵で放牧豚の脱柵を防げるか?. 日本暖地畜産学会報. 61:143-145.
- Saki Shimamoto, Daichi Ijiri, Kazuki Nakashima, Mana Kawaguchi, Akira Ohtsuka. 2018. The β 2-adrenergic receptor is involved in differences in the protein degradation level of the pectoral muscle between fast- and slow-growing chicks during the neonatal period. General and Comparative Endocrinology. 267. 45-50.
- 井尻大地・宝蔵直樹・島元紗希・川口真奈・古川愛理・多田司・友永省三・中島一喜・大塚彰. 2018. プロイラー初生ヒナへの飼料給与の開始日齢が鶏肉の脂質過酸化, ドリップ量, 肉色, 低分子代謝産物濃度, および味認識装置により測定された味覚特性に及ぼす影響. 日本畜産学会報. 89. 191-198.
- Ikenaga M, Katsuragi S, Chishaki N, Handa Y, Katsumata H, Kawauchi T, Sakai M. 2018. Improvement of bacterial primers to enhance the selective SSU rRNA gene amplification of plant-associated bacteria by applying LNA oligonucleotide - PCR clamping technique, Microbes and Environments, 33, 340-344.
- 赤木功・原田竜海・樗木直也. 2018. 鹿児島大学農学部附属農場で栽培されたオクラ11品種の果実中カドミウム濃度. 鹿児島大学農学部附属農場研究報告. 39:1-5.
- 芝山道郎・林田亮太・神田英司・下田代智英・木村昭彦. 2018. 定点俯瞰分光反射率画像による水稻群落葉色モニタリングの試みー自動インターバル撮影による反射率指標と観測条件の検討ー. システム農学. 34(3), 67-76

(2) 口頭・ポスター発表

- 山田翔太・下田代智英. 2018. サツマイモの節苗直挿し栽培における栽植密度の影響. 焼酎学シンポジウム
- 下田代智英. 2018. Effects of Grain Number on Second Rachis in Paddy Rice under High-Temperature Grain-Filling Condition. 中国水稻品質・食味研究会「お米の品質・食味・加工の国際シンポジウム.
- 市川真・田浦悟・石川隆二・一谷勝之. 2018. アジア栽培イネOryza sativaとオーストラリア野生イネO. meridionalisの交雑後代に見られた半不稔現象の遺伝解析. 第13回九州育種談話会
- 中山雄貴・江崎亮太・畠中京介・Jessey A. Msami・一谷勝之・田浦悟. 2018. イネ品種コシヒカリのイネ白葉枯病に対する反応 V. インド型感受性品種IR24にコシヒカリを交配して作成した組換え型自殖系統の病斑伸長に関するQTL解析 2. 第13回九州育種談話会
- 江崎亮太・中山雄貴・Jessey A. Msami・一谷勝之・田浦悟. 2018. イネ品種トヨニシキのイネ白葉枯病に対する圃場抵抗性のqtl解析. 第13回九州育種談話会
- 豊元大希・潟山祐樹・田浦悟・一谷勝之. 2018. HWA1およびHWA2によるイネ雑種弱勢現象の緩和に関する遺伝解析. 第13回九州育種談話会
- 一谷勝之・久保山勉・手塚孝弘. 2018. イネ雑種弱勢の遺伝と病徴. 日本育種学会第134回講演会
- 田浦悟・田中孝尚・川口祥輝・一谷勝之. 2018. イネ品種あそみのりのイネ白葉枯病抵抗性 V. あそみのり部分置換IAS系統(CSSLs)とIR24のF2におけるQTL解析. 日本育種学会第134回講演会
- 宇田津徹朗・右田晋太郎・石川隆二・一谷勝之. 2018. プラント・オパール形状を利用した野生イネの分化と変遷に関する基礎的研究. 日本文化財科学会第25回大会
- 池本悠一郎・豊元大希・植村真郷・保木良太・田浦悟・一谷勝之. 2018. イネ品種SurjamukhiとKissinの雑種後代に見られる雑種崩壊現象の原因遺伝子の連鎖分析. 日本育種学会第133回講演会
- 田浦悟・畠中京介・Constantine Busungu・川口祥輝・一谷勝之. 2018. イネ品種コシヒカリのイネ白葉枯病に対する反応 IV. インド型感受性品種IR24にコシヒカリを交配して作成した組換え型自殖系統の病斑伸長に関するQTL解析. 日本育種学会第134回講演会
- 豊元大希・田浦悟・久保山勉・一谷勝之. 2018. イネ雑種弱勢原因遺伝子HWA1, HWA2の連鎖分析ならびに量

- 的効果. 日本育種学会第133回講演会
- 保木良太・植村真郷・池本悠一郎・田浦悟・一谷勝之. 2018. アジアとオーストラリアの野生イネ間の雑種第一代で見出された雑種黄化原因遺伝子の連鎖分析. 日本育種学会第133回講演会
- 谷佳那美・香西直子・山本雅史. 2018. CAPS分析による鹿児島県島嶼域在来カンキツ類の類縁関係の解明. 園芸学会平成30年度秋季大会. 414
- 島田温史・香西直子・山本雅史. 2018. 葉および枝の障害程度によるアボカド数品種の耐寒性評価. 園芸学会平成30年度秋季大会. 150
- 島田温史・香西直子・山本雅史. 2018. クロロフィル蛍光分析によるアボカド数品種の耐暑性評価. 日本熱帯農業学会第123回講演会. 65-66
- 橋本文雄. 2018. トルコギキョウの花色研究. 第10回伝統園芸研究会 (園芸学会平成30年度春季大会小集会・日本大学)
- 田淵翔伍・棚瀬光・河内雅弘・坂巻祥孝・津田勝男・鹿子木聡. 2018. カボチャを利用したおとり法によるクワシロカイガラムシの天敵類の検出. 九州病害虫研究会第95回研究発表会
- 池之上祐紀・猪口真帆実・坂巻祥孝・津田勝男・鹿子木聡. 2018. 合成ピレスロイド剤4種に対するカブリダニ類の忌避能力. 九州病害虫研究会第95回研究発表会
- 小山秀美・加世田景示・上西愼茂・今村清人・坂元信一・大島一郎・片平清美・河邊弘太郎・岡本新・下桐猛. 2018. MITF遺伝子の変異と黒毛和種の白斑との関連性に関する研究. 第11回日本暖地畜産学会長崎大会. 長崎ウエスレヤン大学
- 小山秀美・有木啓・今村清人・坂元信一・大里和弘・西和隆・河邊弘太郎・岡本新・本多健・大山憲二・下桐猛. 2018. 黒毛和種で発生する白斑と枝肉形質との関連性の調査. 日本動物遺伝育種学会第19回京都大会. 京都大学
- 中村南美子他13名. 2018. キュウシュウジカの色覚: 有彩色と無彩色の識別能力. 日本畜産学会第124回大会
- 中村南美子他12名. 2018. キュウシュウジカの色覚: 有彩色同士の識別能力. 第11回日本暖地畜産学会長崎大会
- 石川ひびき他11名. 2018. 黒毛和種繁殖牛の分娩監視に係わる動線解析器具 (ネックベルト) が血漿中コルチゾール濃度に及ぼす影響. 第11回日本暖地畜産学会長崎大会
- 平野里佳他5名. 2018. カツオ節だし残渣の給与がアイガモの産肉性ならびに産卵性に及ぼす影響. 第11回日本暖地畜産学会長崎大会
- 高山耕二他5名. 2018. 水田放飼した薩摩黒鴨TMの産肉性. 19回日本有機農業学会大会
- 興相瑠香奈・西木場菜央・島元紗希・井尻大地・中島一喜・大塚彰. 2018. レイヤー初生ヒナへの飼料給与開始の遅延が適温および暑熱環境下での産卵成績と卵質に及ぼす影響. 日本家禽学会春季大会
- 島元紗希・井尻大地・中島一喜・友永省三・大塚彰. 2018. 初期成長期の成長速度が異なるブロイラーヒナにおける骨格筋タンパク質代謝回転速度の比較. 日本家禽学会秋季大会
- 池永誠・川内智裕・吉崎由美子・境雅夫. 2018. 土壌・植物根圏における揮発性有機化合物 (VOC) の網羅的解析による微生物群集の評価. 日本土壌微生物学会2018年度大会 (広島)
- 葛城翔平・池永誠・境雅夫. 2018. 植物共存細菌の選択的16S rRNA遺伝子増幅法に用いるプライマーの改良と比較. 日本土壌微生物学会2018年度大会 (広島)
- 樫木直也・宮永憲一・山内正仁・森重朱理・赤木 功. 2018. 焼酎粕・下水汚泥堆肥を用いたキノコ栽培廃培地のコマツナへの施用効果. 日本土壌肥料学会. 2018年度神奈川大会
- 塩屋百華・藤本佳奈枝・濱中大介・渡部由香. 2018. 冷凍前的高圧処理による褐変防止剤の浸透がライチ果皮色に及ぼす影. 園芸学会九州支部会

(3) 著書

- 橋本文雄. 2018. ユーストマの新品種作出法. 農耕と園藝. 10月号. pp26-30

(4) 報告書

(5) 商業誌

- 高山耕二・大島一郎・中西良孝・赤井克己. 2018. 畜産現場におけるカラス, イノシシおよびシカ害防除. 農業および園芸. 93: 103-107.
- 中西良孝. 2018. 臨床獣医師は知っておきたい! 山羊の診療. 第1回基礎知識. 臨床獣医. 424: 34-37.
- 中西良孝. 2018. 臨床獣医師は知っておきたい! 山羊の診療. 第2回 飼い主から尋ねられる飼育管理技術 I. 臨床獣医. 426: 58-61.

- 中西良孝. 2018. 臨床獣医師は知っておきたい！山羊の診療 第3回 飼い主から尋ねられる飼育管理技術Ⅱ. 臨床獣医. 429：56-58.
- 中西良孝. 2018. 臨床獣医師は知っておきたい！山羊の診療 第4回 飼料衛生. 臨床獣医. 431：39-43.
- 中西良孝. 2018. 臨床獣医師は知っておきたい！山羊の診療 第5回 発生頻度の高い疾病の治療と予防. 臨床獣医. 433：60-64.

(6) 特許

(7) 博士論文

(8) 修士論文

- 台信香澄. 2018. 水稻における後期重点施肥が穂の着粒構造に及ぼす影響と高温登熟障害の軽減効果について
- 宮寄訓里. 2018. 水稻の初切除による着粒構造の変化が登熟に及ぼす影響
- 古澤典子. 2018. アセロラ (*Malpighia glabra* L.) の組織培養系確立に向けた光質および培地条件の解明
- 安永智希. 2018. トルコギキョウの倍数性育種に関する研究
- 田中悠樹. 2018. トルコギキョウの組織培養とトランスポゾンに関する基礎的研究
- 蓑田尚人. 2018. 水稻種子マイクロビオームの動態と機能性評価に関する基盤研究
- 角 一機. 2018. ソラマメ子実の着莢節位と肥大速度がホウ素含有率に与える影響
- 園田 正. 2018. 牧場草地におけるシカ害防除に関する研究

(9) 卒業論文

- 山田翔太. 2018. サツマイモの3節苗直挿し栽培法における栽植密度が及ぼす影響について
- 腰替大地. 2018. 循環型農業の確立を目指した果樹栽培方法の開発
- 谷佳那美. 2018. 鹿児島県島嶼域在来カンキツ類の類縁関係と特性の解明
- 福島直紀. 2018. SCoT分析によるアボカド (*Persea americana* Mill.) の品種識別
- 松元弘二郎. 2018. 数種のカンキツにおける結実条件と果実品質との関係
- 八尋早紀子. 2018. 喜界島在来カンキツ「喜界ミカン」および「シーカー」における倍数体作出
- 針原彩乃. 2018. トルコギキョウの花弁の斑入りに関する研究
- 太刀川由真. 2018. トルコギキョウのレトロトランスポゾンに関する研究
- 小畑 舞. 2018. トルコギキョウの突然変異育種におけるトランスポゾンの利用に関する研究
- 鯨島理沙. 2018. トルコギキョウの放射線照射による変異体の作出
- 加藤文俊. 2018. EMSを用いたトルコギキョウの突然変異育種に関する研究
- 白杵瑳恵. 2018. トルコギキョウの草姿長さに関わる遺伝子型の研究
- 田代桃子. 2018. トルコギキョウの雄性不稔系統の花形・花色の分離の調査
- 池之上祐紀. 2018. チャ圃場における殺虫剤少量散布による天敵の温存効果の確認 - 捕食性ダニ類, 主にカブリダニ -
- 伊丹春衣. 2018. ナス圃場におけるニジュウヤホシテントウの土着天敵の発生活消長と捕食量
- 小椋真実. 2018. チャノホソガ顆粒病ウイルスの新しい増殖方法と周年飼育体制の確立
- 田淵翔伍. 2018. チャ圃場における殺虫剤少量散布による天敵類の温存効果の確認 - クワシロカイガラムシ寄生性天敵類の寄生率の殺虫剤散布量による差
- 中西亮太. 2018. ナス圃場におけるミツユビナミハダニとその天敵の発生活消長 - ミツユビナミハダニの土着天敵の特定 -
- 八重倉芹奈. 2018. チャ圃場における殺虫剤少量散布による天敵類の温存効果の確認 - 鱗翅目害虫 (チャノコカクモンハマキ) とそれらの天敵類 -
- 柳川莉子. 2018. ナス圃場における真正クモ類の生物的防除素材としての評価
- 湯田健太. 2018. 農薬少量散布による中切りチャ園の天敵生物と土壤生物の温存効果およびカンザワハダニの発生活消長
- 加世田景示. 2018. 黒毛和種の白斑に関する分子遺伝学的研究
- 喜舎場芽生. 2018. ロードアイランドレッド種における卵形質関連SNPsの遺伝子型判定
- 田端美応. 2018. 鹿児島県産黒毛和種の死産に関する統計遺伝学的研究
- 亀澤 樹. 2018. 舎飼い肥育豚への竹製遊具の供与が行動に及ぼす影響
- 狩宿友稀. 2018. 肥育豚への解砕繊維状竹粉サイレージ給与が発育ならびに肉質に及ぼす影響

- 柴田果歩. 2018. 解砕繊維状竹粉サイレージまたは解砕ワラ給与が黒毛和種肥育牛の増体, 飼料利用性ならびに健康状態に及ぼす影響
- 中村宏太郎. 2018. 麹菌発酵処理した油ヤシ副産物給与が育成山羊の発育と飼料利用性に及ぼす影響
- 中甌諒太. 2018. 山羊房における段差式給餌台設置が山羊群の行動に及ぼす影響
- 松永裕介. 2018. 鳥害防除に向けたヒヨドリの音声解析
- 中村南美子. 2018. シカ害防除に向けたキュウシュウジカの色覚に関する行動学的研究
- 上村めい美. 2018. ミネラル飼料資材による骨格筋量の増加作用
- 上村 凌. 2018. ニワトリ脂肪前駆細胞のグルコース取込みおよび脂肪酸合成に対するインスリンの作用の解明
- 西木場菜央. 2018. 米糠外皮のラットへの給与が肝臓における低分子代謝産物濃度に及ぼす影響
- 谷川純泰. 2018. 飼料資材としての乾燥黒酢モロミの評価
- 森本由香里. 2018. 持続的生姜栽培に向けた土壌微生物群の動態解析
- 松田 望. 2018. エンドウにおけるホウ素とカルシウムの移動性
- 國府寺亜美. 2018. 土壌還元消毒法の開発焼酎廃液を利用した
- 福田美緒. 2018. 鹿児島県の地域資源を用いた生分解性マルチの開発 ～デンブン粕や焼酎粕の配合による分解特性への影響～
- 山田あかり. 2018. デンブン粕や焼酎粕を用いた生分解性マルチの開発～作物栽培への影響～
- 林田亮太. 2018. 分光画像の観測による水稻葉色変動モニタリング法の研究

3 研究助成

動線解析技術を活用した分娩監視および健康管理システムの開発 (2017-2019). 農林水産省: 経営体強化プロジェクト地域戦略・研究. (分担: 大島一郎)

湛水栽培法によるサトイモの優良種いも増殖および生産性向上 (2016-2018). 農研機構生研支援センター革新的技術開発・緊急展開事業 (地域戦略プロジェクト). (代表: 遠城道雄)

4 学会等活動

日本熱帯農業学会, 日本作物学会, 園芸学会, 日本農作業学会, 日本育種学会, 日本草地学会, 農業生産技術管理学会, 日本畜産学会, 日本暖地畜産学会, 日本家禽学会

5 遺伝資源の保存

農場は, わが国における温暖地, 亜熱帯, 熱帯植物及びトカラ馬, 口之島野生化牛などの希少動物の遺伝資源保存センターとしての機能を有する。各付帯施設で保有する遺伝資源は下記のとおりである。

1) 唐湊果樹園

唐湊果樹園では, 第23表に示すように, 落葉果樹11種類51品種・系統, 常緑果樹2種類134品種・系統, 熱帯・亜熱帯果樹4種類23品種・系統を保存している。

第23表 唐湊果樹園で保存している果樹遺伝資源リスト

樹種名, 学名または組み合わせ	品種・系統名
落葉果樹	
モモ	
<i>Prunus persica</i> Sieb.	ちよひめ
<i>Prunus persica</i> Sieb.	ひめこなつ
<i>Prunus persica</i> Sieb.	はなよめ
スモモ	
<i>Prunus</i> sp.	メスレー
<i>Prunus</i> sp.	大石早生
<i>Prunus</i> sp.	カラリ
アンズ	
<i>Prunus armeniaca</i>	おひさまコット
<i>Prunus armeniaca</i>	ニコニコット
ウメ	
<i>Prunus mume</i> Sieb.	南高
<i>Prunus mume</i> Sieb.	鶯宿

<i>Prunus mume</i> Sieb.	竜峡小梅
ブドウ	
<i>Vitis</i> sp.	キャンベル アーリー
<i>Vitis</i> sp.	翠峰
<i>Vitis</i> sp.	シャイン マスカット
<i>Vitis</i> sp.	サンヴェルデ
カキ	
<i>Diospyrus kaki</i> L.	平核無
<i>Diospyrus kaki</i> L.	富有
<i>Diospyrus kaki</i> L.	次郎
<i>Diospyrus kaki</i> L.	禪寺丸
<i>Diospyrus kaki</i> L.	太秋
<i>Diospyrus kaki</i> L.	新秋
<i>Diospyrus kaki</i> L.	西村早生
<i>Diospyrus kaki</i> L.	ロウヤ柿
<i>Diospyrus kaki</i> L.	常葉柿
<i>Diospyrus kaki</i> L.	刀根早生
<i>Diospyrus kaki</i> L.	大核無
<i>Diospyrus kaki</i> L.	丹麗
ブルーベリー	
<i>Vaccinium</i> sp.	ホームベル
<i>Vaccinium</i> sp.	ウッダード
<i>Vaccinium</i> sp.	ティフブルー
<i>Vaccinium</i> sp.	クライマックス
<i>Vaccinium</i> sp.	パールリバー
<i>Vaccinium</i> sp.	オースチン
<i>Vaccinium</i> sp.	ブライトウエル
<i>Vaccinium</i> sp.	マグノリア
<i>Vaccinium</i> sp.	ジャージー
<i>Vaccinium</i> sp.	ブラッデン
<i>Vaccinium</i> sp.	ジョージアジム
<i>Vaccinium</i> sp.	オニール
<i>Vaccinium</i> sp.	シャープブルー
<i>Vaccinium</i> sp.	T100
クリ	
<i>Castanea</i> Miller	筑波
<i>Castanea</i> Miller	三原系
<i>Castanea</i> Miller	丹沢
<i>Castanea</i> Miller	ぼろたん
イチヨウ (ギンナン)	
<i>Ginkgo biloba</i> L.	藤九郎
<i>Ginkgo biloba</i> L.	嶺南
<i>Ginkgo biloba</i> L.	久寿
ザクロ	
<i>Punica granatum</i> L.	在来系
クワ	
<i>Morus</i> sp.	しだれぐわ
<hr/>	
常緑果樹	
ビワ	
<i>Eriobotrya japonica</i> Lindley	茂木
<i>Eriobotrya japonica</i> Lindley	長崎早生
<i>Eriobotrya japonica</i> Lindley	なつたより
カンキツ	
<i>Citrus macroptera</i> Mont.	カブヤオ
<i>C. hystrix</i> DC.	ブルット

IV 研究活動

<i>C. latipes</i> (Swing.) Tan.	カシーパペダ
<i>C. aurantifolia</i> (Christm.) Swing.	メキシカンライム
<i>C. limettoides</i> Tan.	スイートライム
<i>C. bergamia</i> Risso et Poit.	ベルガモット
<i>C. latifolia</i>	タヒチライム
<i>C. Montana</i> Tan.	ビロロ
<i>C. excelsa</i> Wester	レモンリアル
<i>C. medica</i> L.	ブッシュカン
<i>C. medica</i> L.	マルブッシュカン
<i>C. limon</i> (L.) Burm. f.	アレンユーレカ
<i>C. limon</i>	ビアフランカ
<i>C. limon</i>	イエローベル
<i>C. limon</i>	璃の香
<i>C. limetta</i> Risso	スイートレモン
<i>C. balotina</i> Poit. et Turp.	バロチンベルガモット
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	安政柑
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	晩王柑
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	チャンドラー
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	はやさき
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	紅まどか
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	水晶文旦
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	晩白柚
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	麻豆紅柚
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	土佐文旦
<i>C. grandis</i> (L.) Osb.	大橘
<i>C. pseudogulgul</i> Hort. ex Shirai	ジャガタラユ
<i>C. paradise</i> Macf.	マーシュ シードレス
<i>C. paradise</i> Macf.	オロブランコ
<i>C. paradise</i> Macf.	ルビー
<i>C. hassaku</i> Hort. ex Tan.	農間紅ハッサク
<i>C. medioglobosa</i> Hort. ex Tan.	ナルト
<i>C. natsudaidai</i> Hayata	川野なつだいだい
<i>C. natsudaidai</i> Hayata	紅甘夏
<i>C. ampullaceal</i> Hort. ex Tan.	ヒョウカン
<i>C. yamabuki</i> Hort. ex Y. Tanaka	ヤマブキ
<i>C. kawachiensis</i> Hort. ex Y. Tanaka	カワチバンカン
<i>C. aurantium</i> L.	カブス
<i>C. aurantium</i> L.	回青橙
<i>C. aurantium</i> L.	斑入りダイダイ
<i>C. myrtifolia</i> Rafin.	キノット
<i>C. rokugatsu</i> Hort. ex Y. Tanaka	ロクガツミカン
<i>C. canaliculata</i> Hort. ex Y. Tanaka	キクダイダイ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	ハムリン
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	トロビタ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	オリンダ バレンシア
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	タロッコ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	モロ
<i>C. sinensis</i> (L.) Osb.	ピラリマ
<i>C. tankan</i> Hayata	垂水1号
<i>C. tankan</i>	名護紅早生
<i>C. iyo</i> Hort. ex Tanaka	宮内伊予柑
清家ネーブル × クレメンティン	ありあけ
宮川早生 × トロビタオレンジ	清見
交雑親不詳のタンゴール	マーコット
<i>C. tamurana</i> Hort. ex Tanaka	ヒュウガナツ

<i>C. tamurana</i> Hort. ex Tanaka	オレンジ日向
<i>C. aurea</i> Hort. ex Tan	カワバタミカン
<i>C. ichangensis</i> Swing.	イーチャンジェンシス
<i>C. junos</i> Sieb. ex Tan.	山根
<i>C. junos</i> Sieb. ex Tan.	ユズ
<i>C. junos</i> Sieb. ex Tan.	木頭ユズ
<i>C. hanaju</i> Hort. ex Shirai	ハナユ
<i>C. sudachi</i> Hort. ex Shirai	スタチ
<i>C. sudachi</i>	元寇
<i>C. spaerocarpa</i> Hort. ex Tan.	カボス
学名不明	平兵衛酢
<i>C. nobilis</i> Lour.	クネンボ
<i>C. nobilis</i> Lour.	トクニン
<i>C. unshiu</i> Marc.	原木（4代目）
<i>C. unshiu</i> Marc.	青島温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	寿太郎温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	白川温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	十万温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	石地温州
<i>C. unshiu</i> Marc.	大津4号
<i>C. unshiu</i> Marc.	興津早生
<i>C. unshiu</i> Marc.	宮川早生
<i>C. unshiu</i> Marc.	かごしま早生
<i>C. keraji</i> Hort. ex Tan.	ケラジ
<i>C. keraji</i> var. Kabuchii Hort. ex Tanaka	喜界ミカン
<i>C. keraji</i> var. Kabuchii Hort. ex Tanaka	ナツクニン
<i>C. oto</i> Hort. ex Y. Tanaka	オートー
<i>C. reticulata</i> Blanco	吉田ボンカン
<i>C. reticulata</i> Blanco	薩州
<i>C. deliciosa</i> Ten.	地中海マンダリン
<i>C. genshokan</i> Hort. ex Tan.	ゲンショウカン
<i>C. genshokan</i> Hort. ex Tan.	ウスカワ
<i>C. tangerina</i> Hort. ex Tan	大紅ミカン
<i>C. clementina</i> Hort. ex Tan.	クレメンティン
<i>C. tachibana</i> (Mak.) Tan.	タチバナ
<i>C. kinokuni</i> Hort. ex Tan.	キノクニ
<i>C. sunki</i> Hort. ex Tan.	スンキ
<i>C. reshni</i> Hort. ex Tan.	クレオパトラ
<i>C. depressa</i> Hayata	シイクワシャー
<i>C. depressa</i> Hayata	シークニン（甘）
<i>C. depressa</i> Hayata	シークニン（辛）
<i>C. leiocarpa</i> Hort. ex Tan.	コウジ
<i>C. flaviculpus</i> Hort. ex Tanaka	キミカン
<i>C. sp.</i>	コズ
<i>C. sp.</i>	島みかん（黒島）
キング×地中海マンダリン	アンコール
クレメンティン×ダンシータンゼリン	フォーチュン
小西早生×フェアチャイルド	サガマンダリン
キング×ウンシュウミカン	カーラ
三保早生×クレメンティン	南香
今村温州×中野3号ボンカン	早香
クレメンティン×オーランド	ノバ
ミネオラ×クレメンティン	ページ
清見×中野3号ボンカン	陽香
清見×中野3号ボンカン	不知火

清見×ボンカンF-2432	はるみ
清見×アンコール	あまか
(清見×興津早生)×ページ	天草
(清見×アンコール)×マーコット	せとか
清見×興津早生	津之香
上田温州×ハッサク	スイートスプリング
ダンカングレープフルーツ×ダンシータンゼリン	ミネオラ
津之望×育成系統No.1408	みはや
<i>C. madurensis</i> Lour.	シキキツ
<i>C. sp.</i>	辺塚ダイダイ
<i>C. sp.</i>	小林みかん
キンカン	
<i>Fortunella hindsii</i> (Champ.) Swing.	キンズ
<i>F. margarita</i> (Lour.) Swing.	ナガキンカン
<i>F. japonica</i> (Thumb.) Swing.	マルキンカン
<i>F. crassifolia</i> Swing.	ニンポウキンカン
<i>F. obovata</i> Tan.	チョウジュキンカン
<i>F. margarita</i> X <i>F. crassifolia</i>	ぶちまる
カラタチ	
<i>Poncirus trifoliata</i> (L.) Raf.	ルビドー
<i>Poncirus trifoliata</i> (L.) Raf.	ヒリュウ
熱帯・亜熱帯果樹	
パッションフルーツ	
<i>Passiflora edulis</i> × <i>P. edulis</i> P. <i>Plavicarpa</i>	サマークイーン
<i>Passiflora edulis</i> × <i>P. edulis</i> P. <i>Plavicarpa</i>	ルビースター
<i>Passiflora edulis</i>	アマミノジャンボウ
アセロラ	
<i>Malpighia emerginata</i> DC.	フローロブランカ
<i>Malpighia emerginata</i> DC.	フロリダスイート
アボカド	
<i>Persea americana</i> Mill	フェルテ
<i>Persea americana</i> Mill	エッディンガー
<i>Persea americana</i> Mill	ハス
<i>Persea americana</i> Mill	グエン
<i>Persea americana</i> Mill	リード
<i>Persea americana</i> Mill	ベーコン
<i>Persea americana</i> Mill	Lamb Has
<i>Persea americana</i> Mill	ピンカートン
<i>Persea americana</i> Mill	ズダーノ
リュウガン	
<i>Euphoria longan</i> Stend	N93-6
<i>Euphoria longan</i> Stend	カーラ
<i>Euphoria longan</i> Stend	ハエウ
<i>Euphoria longan</i> Stend	シーチョンブー
<i>Euphoria longan</i> Stend	エワイ
<i>Euphoria longan</i> Stend	ビオキウ
<i>Euphoria longan</i> Stend	サキップ
<i>Euphoria longan</i> Stend	タイウエン
<i>Euphoria longan</i> Stend	フンカク

2) 指宿植物試験場

当場では1918年の設置以来、現在に至るまで、熱帯・亜熱帯植物の収集・保存を行い、教育研究に利用するとともに、地域への普及を行っている。これまで、マンゴー、パッションフルーツなどの熱帯果樹類や熱帯産ヤムイモなどが、南九州で特産化されている。

遺伝資源植物として保存している植物数は、品種や系統も含めると約1,500種類である。これらは、鉢や露地植え

で保存されており、面積ベースでは、温室の40%、ビニルハウスの32%、圃場の50%である。単純計算であるが、教職員はこれら遺伝資源植物の維持、管理に全体の作業の40%程度の時間を割いていることになる。一方で、遺伝資源植物からの収入は、全体の10%程度である。

遺伝資源植物の保存、評価、利用なども附属農場の重要役割のひとつであるが、教職員数と比較した場合の労力や予算的な面からもほぼ限界の状況である。とくに果樹類などは実生系など品種が明確でないものも多く、それらは、結実が見られないものも多い。地域農業への貢献のためにも、明確な品種と生産性の可能性がある熱帯・亜熱帯果樹類への切り替えを進めている。

第24表 指宿植物試験場で保存している主な植物遺伝資源リスト

科名	和名	学名
アオイ	ハマボウ	<i>Hibiscus hamabo</i> Sieb. et Zucc.
アオイ	フウリンブツソウゲ	<i>Hibiscus schizopetalus</i> (M. T. Mast.)
アオイ	ハイビスカス	<i>Hibiscus</i> spp.
アオイ	ヒメブツソウゲ	<i>Malvaviscus arboreus</i> var. <i>drummondii</i> (Torr. et A. Gray) Schery
アオイ	ウナズキヒメフヨウ	<i>Malvaviscus arboreus</i> var. <i>mexicanus</i> Schlechtend.
アオイ	ローゼル	<i>Hibiscus sabdariffa</i> Linn.
アオギリ	ピンボンノキ	<i>Sterculia nobilis</i> Sm.
アオギリ	カカオ	<i>Theobroma cacao</i> Linn.
アカテツ	サボジラ	<i>Achras zapota</i> L.
アカテツ	クダモノタマゴ	<i>Lucuma nervosa</i> A.D.C.
アカテツ	ミラクルベリー	<i>Synsepalum dulcificum</i> Daniell
アカテツ	アビウ	<i>Pouteria caimito</i>
アカテツ	カニステル	<i>Pouteria campechiana</i> (H.B.K) Baehni
アカテツ	スイショウガキ	<i>Chrysophyllum cainito</i> Linn.
アカテツ	アルガンノキ	<i>Argania spinose</i>
アカネ	サンタンカ	<i>Ixora chinensis</i> Lam.
アカネ	イクソラ・ダフィー	<i>Ixora duffii</i> T.Moore
アカネ	コーヒーノキ	<i>Coffea</i>
アヤメ	アメリカシャガ	<i>Neomarica northiana</i>
イネ	レモングラス	<i>Cymbopogon citratus</i> (DC.) Stapf
イネ	スズコナリヒラ	<i>Sinobambusa tootsik</i> Makino f. <i>albostrata</i> Muroi
イネ	ベチバー	<i>Vetiveria zizanioides</i>
イイギリ	ラブリーアップル	
イラクサ	ベリオニア	<i>Pellionia</i> spp.
イラクサ	アサバソウ	<i>Pilea cadierei</i> Gagnep. et Guillaum.
ウコギ	ホンコンカボック	<i>Schefflera arboricola</i> (Hayata) Hayata ex Kaneh.
ウラボシ	コウモリラン	<i>Platyserium bifurcatum</i> (Cav.) C. Chr.
ウルシ	マンゴー	<i>Mangifera indica</i> L.
オシロイバナ	ブーゲンビレア	<i>Bougainvillea</i> spp.
オトギリソウ	マンゴスチン	<i>Garcinia mangostana</i> L..
ガガイモ	スタペリア	<i>Stapelia</i> spp.
カキノキ	ブラックサボテ	<i>Diospyros ebenaser</i>
カタバミ	スターフルーツ	<i>Averrhoa carambola</i> L.
カタバミ	ナガバノゴレンシ	<i>Averrhoa bilimbi</i> Linn.
カヤツリグサ	カミガヤツリ	<i>Cyperus papyrus</i> L.
キク	スイゼンジナ	<i>Gynura bicolor</i> DC
キツネノマゴ	ルリハナガサ	<i>Eranthemum pulchellum</i> Andr.
キツネノマゴ	シロアミメグサ	<i>Fittonia verschaffeltii</i> (Lem.) van Houtte var. <i>argyroneura</i> (Coem.) Nichols.
キツネノマゴ	アトロプルプレウム	<i>Pseuderanthemum atropurpureum</i> (Bull) L. H. Bailey
キツネノマゴ	コダチヤハズカズラ	<i>Tunbergia erecta</i> (Benth.) T. Anderson
キツネノマゴ	ベンガルヤハズカズラ	<i>Tunbergia grandiflora</i> (Rosb. ex Rottl.) Rpxb.
キョウチクトウ	アデニウム	<i>Adenium</i> spp.
キョウチクトウ	オオバナアリアケカズラ	<i>Allamanda cathartica</i> L.
キョウチクトウ	ヒメアリアケカズラ	<i>Allamanda nerifolia</i> Hook.
キョウチクトウ	セイヨウキョウチクトウ	<i>Nerium oleander</i> L.

IV 研究活動

キョウチクトウ	キバナキョウチクトウ	<i>Thevetia peruviana</i> (Pers.) K. Schum.
キョウチクトウ	インドソケイ	<i>Jasminum grandiflorum</i> Linn.
キントラノオ	アセロラ	<i>Malpigia glabra</i> L.
キントラノオ	アメイシア	<i>Bunchosia armeniaca</i> (Cav.) DC
クスノキ	アボガド	<i>Persea americana</i> Milll.
クマツヅラ	ハリマツリ	<i>Duranta repens</i> L.
クマツヅラ	チャイニーズハット	<i>Holmskioldia sanguinea</i> Retz.
クマツヅラ	ランタナ	<i>Lantana camara</i> L.
クマツヅラ	コバノランタナ	<i>Lantana montevidensis</i> (K. Spreng.) Briq.
クマツヅラ	ベトレア	<i>Petrea vollubilis</i> L..
クロウメモドキ	インドナツメ	<i>Zizyphus mauritiana</i> Lam.
クロウメモドキ	ナツメ	<i>Zizyphus jujuba</i> var. <i>inermis</i>
クワ	カンテンイタビ	<i>Ficus awkeotsang</i> Makino
クワ	インドゴムノキ	<i>Ficus elastica</i> Roxb. ex Hornem.
クワ	カシワバゴム	<i>Ficus lyrata</i> Warb.
クワ	ガジュマル	<i>Ficus microcarpa</i> L. f.
クワ	オオイタビ	<i>Ficus pumila</i> L.
クワ	アコウ	<i>Ficus superba</i> Miq. var. <i>japonica</i> Miq.
クワ	パンノキ	<i>Artocarpus altilis</i> Fosb.
クワ	フィカスウンベラータ	
ゴマノハグサ	ハナチョウジ	<i>Russelia equisetiformis</i> Schlechtend et Cham.
サトイモ	カラー	<i>Zantedeschia</i>
サトイモ	ヒトスジグサ	<i>Aglaonema costatum</i> N. E. Br.
サトイモ	アグラオネマ	<i>Aglaonema</i> spp.
サトイモ	クワズイモ	<i>Alocasia odora</i> K.Koch
サトイモ	オオベニウチワ	<i>Anthurium andreaum</i> Linden corr. Andre
サトイモ	サトイモ	<i>Colocasia esculenta</i> (L.) Schott
サトイモ	ジャイアントスワンブタロ	<i>Cyrtosperma chamissonis</i> (Schott) Merrill
サトイモ	ホウライシヨウ	<i>Monstera deliciosa</i> Liebm.
サトイモ	マドカズラ	<i>Monstera friedrichsthalii</i> Schott
サトイモ	スパティフィラム	<i>Spathiphyllum</i> spp.
サボテン	ドラゴンフルーツ	<i>Hylocereus undatus</i>
シソ	クミスクチン	<i>Orthosiphon aristatus</i> (Blume) Miq.
シノブ	タマシダ	<i>Nephrolepis cordifolia</i> (L.) K. Presl
ショウガ	ゲットウ	<i>Alpinia zerumbet</i> (Pers.) B.L.Burt et R.M.Sm.
ショウガ	キフゲットウ	<i>Alpinia zerumbet</i> (Pers.) B.L.Burt et R.M.Sm. 'Variegata'
ショウガ	フクジンソウ	<i>Costus speciosus</i> (J.Konig) Sm.
ショウガ	キョウオウ	<i>Curcuma aromatica</i> Salisb.
ショウガ	ウコン	<i>Curcuma longa</i> L.
ショウガ	ガジュツ	<i>Curcuma zedoaria</i> (Christm) Roscoe
スイカズラ	ゴモジュ	<i>Viburnum suspensum</i> Lindl.
センダン	ランサット	<i>Lansium domesticum</i> Jack.
タコノキ	アダン	<i>Pandanus tectorius</i> Soland.ex Balf.f.
タデ	ハマベブドウ	<i>Coccoloba uvifera</i> .
ソテツ	ナンヨウソテツ	<i>Cycas circinalis</i> L.
ソテツ	ソテツ	<i>Cycas revoluta</i> Thunb.
ツツジ	ケラマツヅジ	<i>Rhododendron scabrum</i> G. Don
ツユクサ	ムラサキオモト	<i>Rhoeo spathacea</i> (Swartz) Stearn
トウダイグサ	クロトン	<i>Codiaeum variegatum</i> (L.) Blume
トウダイグサ	ハナキリン	<i>Euphorbia milii</i> Desmoul. var. <i>splendens</i> (Bojer ex Hook.) Ursch et Leandri
トウダイグサ	アオサンゴ	<i>Euphorbia tirucalli</i> L.
トウダイグサ	ナンヨウザクラ	<i>Jatropha integerrima</i> Jacq.
トウダイグサ	サンゴアブラギリ	<i>Jatropha podagrica</i> Hook.
トウダイグサ	セッカギンリュウ	<i>Pedilanthus tithymalodes</i> (L.) Poit.
トウダイグサ	ククイナツツ	<i>Aleurites moluccana</i> Wild.
トウダイグサ	タンポイ	<i>Baccaurea griffithii</i> .

トケイソウ	ムラサキクダモノトケイソウ	<i>Passiflora edulis</i> Sims.
トケイソウ	パッションフルーツ	<i>Passiflora edulis</i> × <i>P.edulis</i> f. <i>flavicarpa</i>
トケイソウ	ミズレモン	<i>Passiflora laurifolia</i> .
ナス	ニオイバンマツリ	<i>Brunfelsia australis</i> Benth.
ナンヨウスギ	シマナンヨウスギ	<i>Araucaria heterophylla</i> (Salisb.) Franco
ノウゼンカズラ	ハリミノウゼン	<i>Clytostoma callistegioides</i> (Cham.) Bur.
ノウゼンカズラ	ジャカラランダ	<i>Jacaranda</i> sp.
ノウゼンカズラ	イペ	<i>Tabebuia</i> sp.
ノウゼンカズラ	ソーセージノキ	<i>Kigelia Africana</i> (Lam.) Benth
パイナップル	パイナップル	<i>Ananas comosus</i> (Linn.) Merr.
パイナップル	チランジア	<i>Tillandsia</i> spp.
パイナップル	サルオガセモドキ	<i>Tillandsia usneoides</i> (L.) L.
バショウ	バナナ	<i>Musa</i> spp.
バショウ	ニコライ	<i>Strelitzia niccolai</i> Regel et Korn.
バショウ	ゴクラクチョウカ	<i>Strelitzia reginae</i> Ait.
バショウ	ユンケア	<i>Strelitzia reginae</i> var. <i>junceae</i> (Ker-Gawl.) H. E. Moore
パパイヤ	パパイヤ	<i>Carica papaya</i>
バラ	ヒメシャリンバイ	<i>Raphiolepis umbellata</i> (Thunb.) Makino var. <i>integerrima</i> (Hook. et Rehd)
パンヤ	バキラ	<i>Pachira aquatica</i> Aubl.
パンヤ	トックリキワタ	<i>Chorisia speciosa</i>
パンヤ	ドリアン	<i>Durio zibethinus</i> Murr.
パンヤ	バオバブノキ	<i>Adansonia digitata</i> Linn.
バンレイシ	チェリモヤ	<i>Annona cherimola</i> Mill.
バンレイシ	アテモヤ	<i>Annona atemoya</i> hort.
バンレイシ	イランイラン	<i>Cananga odorata</i>
ヒガンバナ	クンシラン	<i>Clivia miniata</i> Regel
ヒガンバナ	ハマオモト	<i>Crinum asiaticum</i> L. var. <i>japonicum</i> Bak.
ヒユ	アルテルナンテラ	<i>Alternanthera ficoidea</i> (L.) R.Br.ex Roem. Et Schult.
フトモモ	キンボウジュ	<i>Callistemon speciosus</i> (Sims) DC.
フトモモ	ユーカリノキ	<i>Eucalyptus</i> spp.
フトモモ	ピタンガ	<i>Eugenia michelii</i> Lam.
フトモモ	フェイジョア	<i>Feijoa sellowiana</i> O.Berg.
フトモモ	メラレウカ	<i>Melaleuca</i> spp.
フトモモ	ギンバイカ	<i>Myrtus communis</i> L.
フトモモ	テリハバンジロウ	<i>Psidium cattleianum</i> Sab.
フトモモ	キミノバンジロウ	<i>Psidium cattleianum</i> Sab. Var. <i>lucidum</i> hort.
フトモモ	グアバ	<i>Psidium guajava</i> L.
フトモモ	レンブ	<i>Syzygium samarangense</i> (Bl.) Merr.&L.M.perry
フトモモ	ミズレンブ	<i>Syzygium aqueum</i> Alston
フトモモ	フトモモ	<i>Syzygium jambos</i> (L.) Alston
フトモモ	ジャボチカバ	<i>Myracia couliflora</i> O.Berg
フトモモ	グルミチャマ	<i>Syzygium dombeyi</i> Skeels
フトモモ	レインボーユーカリ	<i>Eucalyptus deglupta</i>
ベンケイソウ	カゲツ	<i>Crassula portulacea</i> Lam.
ベンケイソウ	カランコエ	<i>Kalanchoe blossfeldiana</i> Poelln.
ホルトノキ	ナンヨウザクラ	<i>Muntingia calabura</i> Linn.
マメ	ソウシジュ	<i>Acacia confusa</i> Merrill
マメ	ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i> Durazz.
マメ	バウヒニア	<i>Bauhinia</i> spp.
マメ	カリアンドラ	<i>Calliandra</i> spp.
マメ	コパノセンナ	<i>Cassia coluteoides</i> Collad.
マメ	ナンバンサイカチ	<i>Cassia fistula</i> L.
マメ	サンゴシトウ	<i>Erythrina</i> × <i>bidwillii</i> Lindl.
マメ	アメリカデイコ	<i>Erythrina crista-galli</i> L.
マメ	マルバデイコ	<i>Erythrina crista-galli</i> L. 'Maruba-Deiko'
マメ	ヒスイカズラ	<i>Strongylodon macrobotrys</i>

IV 研究活動

マメ	タマリンド	<i>Tamarindus indica</i> Linn.
マメ	モンキーフラワーツリー	<i>Phyllocarpus septentrionalis</i> .
ミカン	シロサボテ	<i>Casimiroa edulis</i> La Llave and Lex.
ミカン	フィンガーライム	<i>Citrus australasica</i>
ミカン	ワンピ	<i>Clausena lansium</i> (Laur.)
ミソハギ	メキシコハナヤナギ	<i>Cuphea hyssopifolia</i> H. B. K.
ミソハギ	ハナヤナギ	<i>Cuphea micropetala</i> H. B. K.
ムクロジ	リュウガン	<i>Euphoria longan</i> Lam.
ムクロジ	ライチ	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.
ムクロジ	ランブータン	<i>Nephelium lappaceum</i> Linn.
モクセイ	シマトネリコ	<i>Fraxinus griffithii</i> C.B. Clarke
モクセイ	ハゴロモジャスミン	<i>Jasminum polyanthum</i> Franch.
モクマオウ	モクマオウ	<i>Casuarina stricta</i> Ait.
ヤシ	アカントフィラ	<i>Aiphanes acanthophylla</i> (Mart.) Burret
ヤシ	ユスラヤシ	<i>Archontophoenix alexandrae</i> (F.J.Muell.) H. Wendl. et Drude
ヤシ	ビンロウジュ	<i>Areca catechu</i> L.
ヤシ	ジョオウヤシ	<i>Arecastrum romanzoffianum</i> (Cham.) Becc.
ヤシ	サトウヤシ	<i>Arenga pinnata</i> (Wurmb) Merrill
ヤシ	クロツグ	<i>Arenga tremula</i> (Blanco) Becc. var. <i>engleri</i> (Becc.) Hatus.
ヤシ	ボンネッティ	<i>Butia bonnetii</i> (Becc.) Becc.
ヤシ	ブラジルヤシ	<i>Butia capitata</i> (Mart.) Becc.
ヤシ	クジャクヤシ	<i>Caryota mitis</i> Lour.
ヤシ	チャボトウジュロ	<i>Chamaerops humilis</i> L.
ヤシ	アレカヤシ	<i>Chrysalidocarpus lutescens</i> H. Wendle.
ヤシ	デュシアナ	<i>Coccothrinax dussiana</i> L. H. Bailey
ヤシ	ココヤシ	<i>Cocos nucifera</i> L.
ヤシ	テーブルヤシ	<i>Collinia elegans</i> (Mart.) Liebm. ex Oerst.
ヤシ	シロロウヤシ	<i>Copernicia alba</i> Morong
ヤシ	ヒメショウジョウヤシ	<i>Cyrtostachys lakka</i> Becc.
ヤシ	バガニー	<i>Drymophloeus beguinii</i> (Burret) H. E. Moore
ヤシ	ケンチャヤシ	<i>Howea belmoreana</i> (C.Moore et F.J. Muell.) Becc.
ヤシ	ヒロハケンチャヤシ	<i>Howea forsteriana</i> (C.Moore et F.J. Muell.) Becc.
ヤシ	マルハウチワヤシ	<i>Licuala grandis</i> H. Wendl.
ヤシ	シナビロウ	<i>Livistona chinensis</i> (Jacq.) R.Br.ex Mart.
ヤシ	ビロウヤシ	<i>Livistona chinensis</i> (Jacq.) R. Br. ex Mart. var. <i>subglobosa</i> (Hassk.)
ヤシ	オガサワラビロウ	<i>Livistona chinensis</i> (Jacq.) R. Br. ex Mart var. <i>boninensis</i> Becc.
ヤシ	トックリヤシ	<i>Mascarena lagenicaulis</i> L. H. Bailey
ヤシ	トックリヤシモドキ	<i>Mascarena verschaffeltii</i> (H. Wendl.) L. H. Bailey
ヤシ	ヴェデリアヌム	<i>Microcoelum weddellianum</i> (H.Wendl.) H. E. Moore
ヤシ	ミツヤヤシ	<i>Neodypsis decaryi</i> Jumelle
ヤシ	キリンヤシ	<i>Phoenicophorium borsigianum</i> (K.Koch) Stuntz
ヤシ	カナリーヤシ	<i>Phoenix canariensis</i> hort. ex Chabaud
ヤシ	ナツメヤシ	<i>Phoenix dactylifera</i> L.
ヤシ	カブダチソテツジュロ	<i>Phoenix reclinata</i> Jacq.
ヤシ	シンノウヤシ	<i>Phoenix roebelenii</i> O'Brien
ヤシ	サトウナツメヤシ	<i>Phoenix sylvestris</i> (L.) Roxb.
ヤシ	ヒメヤハズヤシ	<i>Ptychosperma elegans</i> (R.Br.) Blume
ヤシ	シュロチクヤシ	<i>Ptychosperma macarthurii</i> (H. Wendl.) Nichols.
ヤシ	カンノンチク	<i>Rhapis excelsa</i> (Thunb.) A. Henry
ヤシ	シュロチク	<i>Rhapis humilis</i> Blume
ヤシ	フロリダダイオウヤシ	<i>Roystonea elata</i> (Bartr.) F. Harper
ヤシ	サバルヤシ	<i>Sabal</i> spp.
ヤシ	ヤエヤマヤシ	<i>Satakentia liukuensis</i> (Hatsu.) H. E. Moore
ヤシ	コバナクマデヤシ	<i>Thrinax parviflora</i> Swartz
ヤシ	マニラヤシ	<i>Veitchia merrillii</i> (Becc.) H. E. Moore
ヤシ	ウイニン	<i>Veitchia winin</i> H. E. Moore

ヤシ	タケウマキリンヤシ	<i>Verschaffeltia splendida</i> H. Wendl.
ヤシ	オキナヤシ	<i>Washingtonia filifera</i> (Linden ex Andre) H. Wendl.
ヤシ	オキナヤシモドキ	<i>Washingtonia robusta</i> H. Wendl.
ヤマノイモ	カシュウイモ	<i>Dioscorea bulbifera</i> L.
ヤマノイモ	ヤムイモ	<i>Dioscorea cayenensis</i> Lam.
ヤマノイモ	トゲドコロ	<i>Dioscorea esculenta</i> (Lour) Burk.
ヤマノイモ	ヤムイモ	<i>Dioscorea rotundata</i> Poir.
ヤマノイモ	ダイジョ	<i>Dioscorea alata</i> L.
ヤマモガシ	マカダミア	<i>Macadamia integrifolia</i> Maiden et Betche
ヤマモガシ	ステノカーパス	<i>Stenocarpus sinuatus</i>
ヤマゴボウ	オンブー	<i>Phytolacca dioica</i> L.
ユキノシタ	サラサウツギ	<i>Deutzia crenata</i> Sieb. et Zucc. f.plena (Maxim.) C.K. Schneid.
ユリ	キダチアロエ	<i>Aloe arborescens</i> Mill.
ユリ	アロエ	<i>Aloe</i> spp.
ユリ	ハラン	<i>Aspidistra elatior</i> Blume
ユリ	オリズラン	<i>Chlorophytum comosum</i> (Thunb.) Jacques
ユリ	十二の巻	<i>Haworthia fasciata</i> (Willd.) Haw.
ユリ	ソキアリス	<i>Ledebouria socialis</i> (Bak.) Jessop
ラン	ホウサイラン	<i>Cymbidium sinense</i> (Andr.) Willd.
ラン	オンシジューム	<i>Oncidium</i> spp.
ラン	バニラ	<i>Vanilla planifolia</i> G.Jacks.
ラン	トックリラン	<i>Beaucarnea recurvate</i>
リュウゼツラン	リュウゼツラン	<i>Agave</i> spp.
リュウゼツラン	センネンボク	<i>Cordyline terminalis</i> (L.) Kunth
リュウゼツラン	ベニフクリンセンネンボク	<i>Doracaena concinna</i> Kunth
リュウゼツラン	シロシマセンネンボク	<i>Doracaena deremensis</i> Engl.
リュウゼツラン	ギンヨウセンネンボク	<i>Doracaena sanderiana</i> hort. Sander ex M.T.Mast.
リュウゼツラン	レフレクサ	<i>Dracaena reflexa</i> Lam.
リュウゼツラン	ハーニー	<i>Sansevieria trifasciata</i> Prain 'Hahnii'
リュウゼツラン	トラノオ	<i>Sansevieria trifasciata</i> Prain 'Laurentii'
リュウゼツラン	ゴールドンハーニー	<i>Sansevieria trifasciata</i> Prain 'Golden Hahnii'
ワサビノキ	モリンガ	<i>Moringa oleifera</i> Lamarck

- ・指宿植物試験場で保存栽培している主な植物を掲載したが、品種、系統については原則として除外した。
- ・科名、和名、学名については以下の書籍を参考にし、明確な和名が無いものは文献1を主に参考した。

参考文献

- ・塚本洋太郎総監修：園芸植物大事典 1-6巻 小学館. 1990
- ・熱帯植物研究会編：熱帯植物要覧 大日本山林会. 1984
- ・土橋 豊：観葉植物1000 八坂書房. 1992
- ・農林省熱帯農業研究センター：東南アジアの果樹. 農林統計協会 1974

3) 入来牧場

- ・トカラ馬 (*Equus caballus*)

日本に現存する8種類の在来馬の一つで、1953年9月に鹿児島県の文化財として天然記念物に指定されている。鹿児島大学附属農場入来牧場では、平成30年度現在、推計48頭のトカラ馬を保有している。トカラ馬は完全な野生化状態で導入されており、頭数維持は自然交配自然分娩によって行われている。平成27年3月に加えて、平成28年11月に馬伝染性貧血検査のため全頭採血を実施し、全頭頸部皮下に個体識別チップを埋め込んでいる。

- ・口之島野生化牛 (*Bos Taurus*)

日本に現存する2種類の在来牛の一つで、鹿児島県十島村に生息している。口之島野生化牛は絶滅の危機に瀕しているため、鹿児島大学において保護と増殖のための取り組みを行っている。近年の十島村における正確な生息頭数は不明であるが、鹿児島大学農学部附属農場では、9頭を保有し、保護している。平成28年度以降は、純粋口之島野生化牛の流死産が発生したため、産子を得ることができなかったが、平成30年11月および12月の受精卵移植により、純粋口之島野生化牛の産子が計2頭、受胎していることが確認されている。慎重に飼養管理を行い、新たな産子の確保に努めていきたい。